（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス　POCCO音の泉しょうわちゅうおう

公表日 2024年12月20日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		活動に、充分な広さである。	必要のない部屋は施錠する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		法で定められた配置人数を守っている。	配置人数は守られているが、曜日によっては不足を感じている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		利用者にわかりやすい環境となっている。バリアフリー等、適切になっている。	改善点はその都度職員で話し合い、解決できている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎朝、清掃と消毒を行っている。エアドッグやエアコンの清掃も定期的に行っている。	エアコンの清掃は業者に定期的に依頼する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		クールダウン等、必要に応じて相談室を利用している。	適宜、外出(散歩・ドライブ)も取り入れる。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		午前中の時間を使い、振り返ることができている。パート職員も都度、連絡ノートを使い共有している。	職員全員で同じ目標を持ち、より良い支援へつながるよう、小さなことも報告し合う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表をもとに、ミーティングを行っている。良いことも改善点も共有し話し合っている。	月一ミーティングを行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		些細なことも話し合うよう心掛けている。また、職員のグループLINEを利用し、意見を共有する機会を作っている。	「聞いていない」ことが無いよう、確認する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		いつでも見学できる体制を作り、評価をいただく機会を設ける。	どんな意見も真摯に受け止め、改善に努める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		職員研修は定期的に行われ、参加できている。出席できなかった職員にも内容を伝えている。	なるべく全員が出席できるよう、前もって日程を知らせていく。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		事業所の年間プログラムを作成し、公表している。	一年を三期に分けて作成している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		モニタリング時には、保護者に課題をいただき、新しい計画へ取り入れている。	保護者と話す機会を作り、ニーズを知るように心がける。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		事業所の中で担当者会議を開き、計画を見直し話し合う機会を設けている。	個々のできたところ、課題を話し合っている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	7		計画はケア記録を入力するときに目にすることができるので、身近に感じられている。	事業所内の担当者会議で話し合う際、確認できている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		適応行動を知るために職員間で情報共有に努めている。	他の事業所の職員とも情報交換、情報共有している。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		具体的な支援内容を設定している。また、相談員と連携を取っている。	分かりやすい支援内容にするよう、具体的なものを設定する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		プログラムがマンネリ化しないよう、考えている。	職員を中心に考えている。作業療法士の意見も積極的に取り入れている。

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		子どもたちが興味を持てるような内容を考えている。	月の歌は季節に合ったものを選んだり、運動療育委員会のプログラムを積極的に取り入れている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団の活動がメインとなっている。状況に応じて個別対応も取り入れている。	臨機応変に対応している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎回、活動前に打合せを行っている。役割分担もそれぞれ活躍できるものを担当している。	その場での急な変更にも対応できている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	7		毎回、振り返りを行っている。	気づいた点は、その場で話し合い情報共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		ケア記録を入力している。翌日中に公開している。	その日の活動の様子を写真と共に保護者へお伝えしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年ごとにモニタリングを行っている。適宜、見直しをしている。	保護者からも意向をいただく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7		音楽活動が中心だが、祝日や長期休暇には調理活動や戸外活動等、ガイドラインに沿った支援を行っている。	子どもたちが楽しいと思える活動を提供していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		子どもたちの意志を尊重している。また、選択肢の中から決定できる機会を作っている。	いろいろな意見を取り入れる。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		主に管理者が出席している。	出来るようになったこと等、成長を大いに情報共有している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		関係者会議には、それぞれの方面からの意見を聞くことができている。	会議後は、職員間で情報共有する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校から行事予定をいただいたり、月ごとに下校時間を知らせていただいている。	緊急連絡先として、事業所の携帯電話を知らせている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		関係者会議時に、情報共有できる機会がある。	就学前に過ごした園を知っておく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		他の事業所との情報交換、情報共有をしている。	学校を卒業してからの進路について、見届けていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	7		関係者会議で参加があった際は、支援について助言を受けている。	困ったことについて、意見をいただけるような機会を作りたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7	現在は実施できていない。	企業内保育所とイベントを通して交流する機会を設けたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		管理者が出席している。	地域のいろいろな事業所と顔を合わせている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時にその日の様子を伝えている。	学校や家庭での様子をお聞きし、共通理解に努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		療育の場面を見学できる機会を設ける。今後は親子参加の活動を考えていく。	長期休暇や祝日に親子参加型の活動を考え、積極的に来ていただく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明している。	分からない点は、その都度ご質問をいただき、対応する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		事前にご家族の意向をお聞きしている。また、説明し計画にご捺印いただいている。	丁寧な説明を心がける。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	7		計画を作成し、その都度お伝えしている。	分からない点は、その都度ご質問をいただき、対応する。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎時にお聞きしたり、モニタリング時にお話ししている。	すぐに助言等できない場合は、持ち帰り職員間で話し合いを行う。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		現在、父母の会はないが、保護者の中には交流を望む声もある。保護者の負担にならないよう考えていきたい。	今後は活動の中で保護者交流の機会を作り、利用申し込み時にお知らせする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情があった場合は、迅速に対応している。また、再発防止について職員間で話し合う。	事業者内で話し合うと共に、上長に報告し、指示を仰ぐ。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		定期的にインスタグラムの更新や、POCCO全体の公式LINEにて活動を報告している。	インスタグラムや公式LINEがあることをお知らせする。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		職員全員が責任を持っている。	個人ファイルは、鍵付きロッカーで管理している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		特性を理解し、保護者対応を気を付けている。	職員で話し合い、共通理解に努めている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		年に一度、外部の『マンドリン同好会』の方を招き、ミニコンサートを開催していただいている。	毎年の恒例行事としていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		定期的に事業所で行っている。訓練を行った際は、ケア記録やインスタグラムでお知らせしている。	引き続き、定期的に行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		洪水発生を想定し、垂直非難の訓練を行った。	非常災害の備蓄品を準備している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		契約時に、保護者より申し出てもらっている。	発生時の対応について、事業所内に掲示し周知している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		契約時に、アレルギーについての同意書をいただいている。	全職員で共有できるよう掲示している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全管理の意識を全職員で持ち、支援を行っている。	危険個所は、小さなことでも確認し合い対処する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	7		契約時に緊急連絡引き渡しカードの記入をお願いし、保管している。	緊急持ち出しセットと同じ場所へ保管する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		月に一度の責任者会議において、他事業所とも共有している。事例は事業所に持ち帰り、検討している。	全職員と共有している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		社内で適正化委員会を中心に職員研修を行っている。	様々な事例を共有している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		契約時に保護者に分かりやすく説明し、同意書をいただいている。	やむを得ず、行われそうな子どもには、個別支援計画へ記載する。